清茅甘乃竜めく上や　初郭懐　芦汀

市園生ゆく粧きゆく粧ふてふ　竹蘭

蘇の柄をかりて胡蝶も休むかな　一貫

蝶乃ちゝ見も毛風表　嘯霞

古井ゝ蝶の出さゆく日和耶　曲水

たゝまゝ風　和らるる白ふとき　猿面

杯に流て　上巳　蝶　吟素

伊保姫の衣のきぬちまふ胡蝶　酔月

日のさゝて蝶の羽粧ゝなる　春園

糸桜よつなゝきて花ゝ小蝶ゝ耶　真澄

菜の花ゝ行きて　花ゝ蝶　金風

こてゝまて香炉ゝかさせ雨の蝶　一笠

一剣　那魯ゝ東ゝ蝶ゝ西　冬水

雨手洗の柄杓ゝ蝶のとまりけり　杭亮

くなひ子の文流む窓や春山蝶　義風

ましいつゝ扇ゝ狂ふ小蝶ゝ耶　駝水

鄙の夏や蝶ゝ変なる蝶の影　文了

金屏ゝひゝめく蝶の海ゝ耶　春嬌

花ゝゆく祇ゝ狂ふや朝の蝶　光弘

花妻恋て来ゝ蝶ひとり　露仙

追ふ姫の髪ゝ蝶ゝ行く初蝶ゝ　酔春

る供等の蝶追ひ来ゝ天気ゝ　徽文

牛の子の鼻先ゝ来ゝ初蝶ゝ　狂花

初蝶や子たゝ小蝶ゝ落ちゝ　羽彩

蝶せゝと流ふ蝶の赤らしら　駝松

若ゝまゝ箕の香や　眠ゝ蝶　素牛

蝶ひとり　新緑のほゝ　春氏　香三

初ふゝ蝶　池ゝ夢さまなゝ

明治壬寅　弥生月　初なもし會